

## 課題レポート:「ソフトランディング」方式による文章表現

### ■課題の内容

この「文字情報論 I/II」を、将来の学生にとってより充実した講義にするための提言を求めたい。この講義では、人間の知的生産活動をテキスト処理のプロセスとして捉え、それを支援する C+I のあるべき姿を論じてきたつもりである。具体的には、

- コンピュータによるテキストの表現
- インターネットによるテキストの探索と収集
- 電子リファレンスの活用
- インターネットによる情報発信
- データベース管理システムによるテキストの整理と活用
- 電子化ドキュメント(PDF)を利用したテキスト情報管理の体系化
- 発想法支援ツール、アウトラインエディタなどによる「考える」ことの支援

などのことがらを扱い、テキスト処理としての知的生産活動の全体像を描こうと試みた。

しかし、みなさんの一人一人には、講義内容に対する不満や、こうしたらという提言があるかもしれない。いや、あるはずである。

そこで、来年度以降「文字情報論 I/II」について、

- この単元も入れてほしい。
- この単元は不要なのではないか。
- この単元はこう教えたほうがよい。

などを考察し、A4 版用紙 1 枚 (1600 ~ 2000 字) 程度の文章を書くことが課題の目標である。ただしここでは、2 次元、1.5 次元の段階を経て、テーマ(問題)を徐々に構造化し、最終的に 1 次元の文章に書き下すという「ソフトランディング方式」を経験することに眼目がある。

## □作業手順

### ●2次元のチャート化

まず、発想法支援ツールを用いてテーマ(問題)の構造を図示し、その上で構想を練る。支援ツールはフリーのものを使ってもよいし、PowerPointで描いてもよい。図を描くことが目的なのではなく、あくまで考えるための手段であることを忘れないでほしい。

### ●1.5次元のアウトライン化

完成した2次元のチャートを見ながら、アウトラインエディタを用いて、テーマ(問題)のアウトラインを作成する。アウトラインエディタはフリーのもの、WZ Editor や Word に搭載されているアウトライン機能のどちらを用いてもよい。ここでもやはり、アウトライン(の文書)を作るという作業自体が目的になってしまわないように注意する。

### ●レポートの執筆

完成した1.5次元のアウトラインを見ながら、Wordを用いて、最終的な文章に書き下す。このときには、アウトラインの各部分について、その内容をできるだけ正確に表現することだけに専念できるはずである。いうまでもないが、文章が駄目ならずべて駄目である。

## □提出物

●Word 文書を印刷したもの(所属、氏名はここに書くこと)

●2次元のチャートを印刷したもの

●1.5次元のチャートを印刷したもの

の3種類を、この順に閉じて提出すること。